

呼吸器内科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

呼吸器病学の基礎的知識を修得し、呼吸器病全般にわたる診断と治療、および患者の医学的管理に関する基本的な技術の修得を目標とする。

2) 施設認定：日本呼吸器学会

3) 指導医

- 藤井 達夫 部長 日本内科学会認定内科医・指導医
 日本呼吸器学会専門医・指導医
- 玉垣 学也 副部長 日本内科学会総合内科専門医・指導医
 日本呼吸器学会専門医・指導医
 日本アレルギー学会専門医
 ICD 認定

指導者

- 西田 浩平 医 長 日本内科学会認定内科医
 日本呼吸器学会専門医
 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
 日本結核病学会結核・抗酸菌症認定医
 大阪府難病指定医

戸田 詩織 医 長
永井 貴彬 医 師

4) 研修内容と到達目標：呼吸器疾患の基本的診断法、検査法、治療法を修得する。

①呼吸器疾患の基本的診察法

- ・病歴聴取
- ・理学的所見の取り方 (特に胸部視診、聴診、打診)

②呼吸器疾患に関する諸検査法

血液一般検査および生化学の読み、動脈血ガス検査、胸部X線検査、胸部のCT、MRI、胸部超音波検査、肺機能検査、運動負荷テスト、*気管支鏡検査、胸腔穿刺法と検査法、*胸膜生検、アレルギー学的検査 (皮膚反応を含む含む)、PSG 検査、核医学的検査；肺血流シンチ、肺 67Ga シンチ

③呼吸器疾患の治療

- ・輸液療法、吸入療法、各種抗生剤の使用法、*抗癌剤の使用法
- ・呼吸管理：酸素吸入、NIPPV、CPAP、*気管内挿管、*気管切開
- ・在宅治療 (在宅酸素療法、在宅NIPPV、睡眠時無呼吸症候群治療を含む)

5) 教育体制

呼吸器病棟において、指導医とともに入院患者を受け持ち呼吸器疾患患者の診療技術を習得する。また気管支鏡検査などの検査の際は検査に参加して基本技術の習得を目指す。毎週行われる症例検討会には担当医として参加し症例の病状報告と治療法について検討する。

6) 呼吸器内科週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来診療	外来診療	外来診療	部長回診	外来診療
午後	病棟回診	病棟回診	気管支鏡		病棟回診
	症例検討	気管支鏡			

循環器内科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

スーパーローテイトの一環として循環器領域での必要な研修を行う。基本的手技、各種検査、循環器疾患の管理などを行い、臨床医としての基礎を習得することを目的とする。後期研修では心臓カテーテル検査、血管内手術における補助の実際も研修する

2) 施設認定：日本内科学会、日本循環器学会、日本不整脈心電学会

3) 指導医

- 坂谷 知彦 部長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
 日本循環器学会認定循環器専門医
 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医
 日本心血管インターベンション治療学会認定医
 日本核医学会核医学専門医

指導者

- 酒本 暁 医 長 日本内科学会認定内科医
 日本循環器学会認定循環器専門医
 日本心血管インターベンション治療学会認定医
 日本心臓血管麻酔学会日本周術期経食道心エコー認定医 (JB-POT)
- 前田 遼太郎 医 長 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
 日本循環器学会認定循環器専門医
 日本心血管インターベンション治療学会認定医
 日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士

4) 研修内容と到達目標

- ①**基本手技** 心肺蘇生、静脈ルート確保、*穿刺法 (胸腔、心嚢液)、S-Gカテーテル管理など
- ②**基本的検査法** 聴診など基本的な理学検査法、心電図検査、単純X-P・造影X-P・X線CTの読影、心エコー検査、運動負荷検査、RI検査など
- ③**循環器疾患の管理** 各種循環器疾患について理解と経験を積む
- ④**救急患者に対するプライマリーケアの対応と管理**
- ⑤**心臓カテーテル検査** 心臓カテーテル検査補助に入り検査の実際を経験、冠動脈形成術、不整脈に対するカテーテルアブレーションなど
第二助手として血管内手術を体験する
- ⑥**ペースメーカ植え込み** 助手として体験する。

5) 教育体制 (研修体制)

循環器内科病棟において、指導医とともに患者を受け持ち、基本的手技および診療技術を習得する。外来救急患者については適宜治療に参加する。病棟回診は受け持ち患者のみならず部長回診に同行し、各種患者の病態の把握に努める。*後期研修では受け持ち患者の心臓カテーテル検査および血管内治療には必ず入るが、それ以外でもほぼ検査ごとに参加し基本的手技の習得に努める。緊急呼び出しには個別に対応し、循環器急性疾患の研鑽に努める。

6) 週間スケジュール

	午前	午後	
月	外来診療	Treadmill 運動負荷検査 心エコー検査	カテ検討 回診
火	病棟回診、運動負荷心筋シンチグラフィ	心臓カテーテル検査 (不整脈)	
水	外来診療	心臓カテーテル検査 (虚血、下肢動脈)	
木	外来診療、運動負荷心筋シンチグラフィ	Treadmill 運動負荷検査 心臓カテーテル検査 (虚血、下肢動脈)	
金	外来診療	Treadmill 運動負荷検査 心エコー検査、ペースメーカー外来	

消化器内科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

当科における臨床研修は消化器疾患全般における診断と治療を行うことのできる総合的な知識と技術を習得することを目的としている。さらに末期癌患者の包括的ケアを含めた全人的な医療にも重点を置いている。消化器内科領域の疾患は多岐にわたり、診断・治療法を身に付けるにはかなりの年数を要するのが実情である。従って一ヶ月間の研修で修得できる内容は限定されるが、消化器内科領域は勿論のこと、内科全般に共通する初療における考え方と実技の概要を理解できるよう最大限の配慮を行っている。さらに後期研修で再度選択すれば、消化器疾患の診断と治療に対する理解を深めるとともに、一部の検査の実技に携わることができる。

2) 施設認定：日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本超音波学会、日本大腸肛門病学会

3) 指導医

清水 誠治 統括副院長

- 日本内科学会認定内科医・指導医
- 日本消化器病学会専門医・指導医
- 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 日本大腸肛門病学会専門医・指導医
- 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医

富岡 秀夫 部長

- 日本内科学会認定内科医・指導医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医

横溝 千尋 副部長

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- 日本肝臓学会肝臓専門医・指導医

指導者

上島 浩一 医 長

- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本消化器病学会消化器病専門医

石 破 博 医 長

- 日本消化器病学会専門医
- 日本肝臓学会肝臓専門医・指導医
- 日本内科学会認定内科医

高 山 峻 医 長

- 日本内科学会認定医
- 日本消化器病学会消化器病専門医
- 日本ヘリコバクター学会認定医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本消化管学会胃腸科専門医・指導医
- 日本化学療法学会抗菌化学療法認定医
- 日本内科学会総合内科専門医

橋 本 光 医 長

4) 研修到達目標

- ①消化器疾患の基本的診察法：問診、理学所見の取り方
- ②臨床検査法の理解：尿検査、糞便検査、肝機能検査、肝炎ウイルスマーカー、膵酵素、免疫学的検査、腫瘍マーカー、線維化マーカー、細菌学的検査など
- ③画像診断法：（*の項目については最初の一カ月間の研修期間中は見学のみ）
 - 単純X線検査
 - 腹部超音波検査および*関連治療手技
 - *消化管造影X線検査（上部消化管造影、小腸造影、注腸X線）
 - *消化管内視鏡検査（上部消化管、大腸）
 - *胆膵造影X線検査（DIC, PTCD, ERCP）および関連治療手技
 - 腹部X線CT, MRI, 各種シンチグラフィ
 - *腹部血管造影および関連治療手技
- ④消化器疾患の基本的手技と治療法（但し、侵襲的な治療手技については最初の一カ月間の研修中は見学のみ）
 - 生活指導, 食事療法, 栄養療法
 - 血管確保の手技と輸液療法、*中心静脈栄養療法
 - 腹水穿刺
 - 薬物療法（処方の実際と理論）
 - 輸血療法の理解
 - 救急処置法（ショック、消化管出血、閉塞性黄疸、肝性昏睡、急性腹症、腸閉塞など）
 - 外科的手術の適応決定
 - 内視鏡治療の理解
 - 肝生検の適応
 - 超音波ガイド下治療の理解
 - 放射線療法の理解
- ⑤院内カンファレンスへの参加
 - 症例検討会、各種画像カンファレンス、外科との合同カンファレンス、CPC、抄読会など院内で催される会に参加することで基本的な知識を習得し、質疑応答を体得する
- ⑥学会・研究会活動
 - 学会や研究会へ参加することにより最新の知識を吸収する
 - 学会・研究会において自ら発表することで説得力のある提示法を身につける
 - 論文を作成することにより論理的思考を修得する

5) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
外来	○	○	○	○	○
腹部超音波	○	○	○	○	○
上部消化管内視鏡	○	○	○	○	○
下部消化管内視鏡	○	○	○	○	○
消化管造影X線		○	○	○	
ERCP/ 上部内視鏡治療		○	○	○	
血管造影	○		○		
カンファレンス	症例検討		外科と合同		

血液内科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

私たちは血液学が大好きな医師の集まりです。血液学に興味がある先生も、全く興味のない先生も、これからの長い医師生活のなかでほんのわずかな期間でも血液学を体験してみませんか。将来どの診療科に進んでも血液とは無関係ではいられません。白血病や悪性リンパ腫などの血液疾患に対する最新の化学療法や分子標的療法はもちろんのこと、重症感染症の診断と治療、日常診療で遭遇しうる白血球減少や血小板減少などの血液検査異常に対する診療テクニックなどを学べる機会を用意します。また、学会発表経験を通じて学術的成果の発信能力を養う機会も提供します。

2) 認定施設：日本内科学会、日本血液学会、日本 HTLV-1 学会

3) 指導医

- | | | |
|----------|--------------------------|-----------------------|
| 高起良 部長 | <input type="checkbox"/> | 日本 HTLV-1 学会評議員 |
| 間部賢寛 副部長 | <input type="checkbox"/> | 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本血液学会認定専門医・指導医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本造血細胞移植学会認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 細胞治療認定管理士 |
| 南野智 副部長 | <input type="checkbox"/> | 日本血液学会認定専門医・指導医 |
| | <input type="checkbox"/> | 臨床研修指導医講習会修了 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本造血細胞移植学会造血細胞移植認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本骨髄バンク調整医師 |
| | <input type="checkbox"/> | 難病指定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本内科学会認定内科医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本内科学会総合内科専門医 |

指導者

曾我部 信広 医師

4) 研修内容と到達目標：

血液内科診療に必要な基礎知識を学び、骨髄検査等の検査手技を習得する。evidence based medicine (EBM) に基づいた治療方針の組み立て方を学び化学療法を実践する。化学療法中に発生する種々の合併症のコントロールを通じて内科全般の診療能力を高める。特に、重症感染症の診断と治療法を学ぶ。学会発表経験を通じて学術的成果の発信能力を養う。患者、医療スタッフとのコミュニケーション能力を培う。研修医の先生の希望に応じた研修プログラムも用意する。

1. 白血球、赤血球、血小板、凝固系などの血液検査異常に対処できるよう診断法と治療法を習得する。
2. 白血病や悪性リンパ腫などの造血器悪性腫瘍に対して最新のエビデンスを理解した上で化学療法、自家末梢血幹細胞移植、分子標的療法などを実践する。
3. 化学療法中の重篤合併症 (例、DIC、高カリウム血症、高カルシウム血症、腎障害、肝機能障害など) の管理法を学ぶことで一般内科の診療レベル向上につなげる。
4. 重症感染症の診断法と治療法を学ぶ。
5. 血液内科関連の検査手技 (骨髄穿刺、骨髄生検、腰椎穿刺) や中心静脈カテーテル挿入法を習得する。
6. 輸血の適応と実施手順、適合検査、副作用とその対策について理解する。
7. 患者・家族に対して的確に治療方針を説明できるようコミュニケーション能力を身につける。

8. 学会発表経験を積み、学術的成果の発信能力を養う。

9. 代表的疾患の治療:

悪性リンパ腫 (ML)、成人T細胞白血病・リンパ腫 (ATL)、急性骨髄性白血病 (AML)、急性リンパ性白血病 (ALL)、慢性骨髄性白血病 (CML)、骨髄異形成症候群 (MDS)、再生不良性白血病 (AA)、多発性骨髄腫 (MM)、特発性血小板減少性紫斑病 (ITP)、自己免疫性溶血性貧血 (AIHA) その他

上記疾患に対する化学療法、自家末梢血幹細胞移植、分子標的療法、免疫抑制療法などを実践する。

10. Immunocompromised host の管理 (予防と早期診断・治療)、重症感染症の治療、止血・凝固異常症の対応。

5) 教育体制

1. 急性白血病や悪性リンパ腫などの症例を担当する。指導医の元で入院患者に対する診療を通じて、診断法、化学療法の実際、感染症管理法、患者・家族とのコミュニケーションの取り方などを学ぶ。

2. 指導医の指導の元で骨髄検査、腰椎穿刺、中心静脈カテーテル挿入などの手技を実施する。

3. 学会発表の方法を指導医から学び、今後の医師としてのキャリアアップにつなげる。

6) 週間スケジュール

大半は病棟診療 (化学療法) と検査手技に従事して、外来診療は主に病歴聴取や外来化学療法を経験する。

月	外来診療、病棟診療		<ul style="list-style-type: none">● 外来化学療法● 病棟化学療法 (自家末梢血幹細胞移植)● 検査 (骨髄検査、腰椎穿刺)● 中心静脈カテーテル挿入
火	外来診療、病棟診療	医師カンファレンス	
水	外来診療、病棟診療	病棟カンファレンス	
木	外来診療、病棟診療		
金	外来診療、病棟診療		

糖尿病・代謝内科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

内科一般診療の基礎知識、技能を修得し、なによりも大切な思考の過程を研修するとともに、当科の専門分野である代謝内分泌疾患に関する基礎的技術の修得をはかる事を目的とする。糖尿病を中心とした患者教育を通じて心理教育学の重要性、コメディカルとのチーム医療の要点につき理解を深める。後期研修では経験症例に関連した学会発表を行う。

2) 施設認定： 日本内科学会、日本糖尿病学会

3) 指導医

- 最上 伸一 部長 日本内科学会認定内科医
 日本旅行医学会認定医
 日本糖尿病学会専門医
 日本糖尿病学会研修指導医
- 杉田 倫也 副部長 日本内科学会認定内科医
 日本糖尿病学会専門医

指導者

大西 彩加 レジデント

4) 研修内容と到達目標： (* : 後期研修目標)

糖尿病、甲状腺疾患を中心としたホルモン異常症ならびに肥満症、高脂血症を中心とした種々の代謝疾患の診療を行う。

1. 糖尿病の診断の手順、インスリン分泌能の評価、病歴聴取、理学所見のポイントを修得する。
2. 糖尿病のコントロールの指標とその目標を理解し評価する。
3. 糖尿病の緊急処置 (意識障害、低血糖) を理解、評価し低血糖に対応する。
4. 一般的な食事療法の目的、手順、運動療法の適応と禁忌を理解し設定する。
5. 内服薬、インスリン療法、血糖自己測定の原理と適応を理解、評価する。
6. 糖尿病眼合併症・腎症・神経障害等の合併症の病態、検査を理解し結果を評価できる。
7. 動脈硬化病変の病態、検査を理解し、結果を評価できる。
8. 心理を理解し患者教育の基本を理解、コメディカルと協力し初期教育の基本を行う。
9. 甲状腺疾患の理学所見のポイントを習得、診断の手順を理解し評価する。
10. 高脂血症、高尿酸血症の診断の手順を理解し評価する。
 11. 各種の内分泌疾患の診断手順を理解する。
- * 12. 外科手術前後の糖尿病管理、妊娠糖尿病の診断、計画妊娠管理を理解、評価する。
- * 13. 小児若年、高齢者糖尿病、特殊な糖尿病、他疾患に続発する糖尿病の特性を理解、評価する。
- * 14. 強化インスリン療法、CSII 療法の適応を理解し導入する。
- * 15. CGMの適応を理解、選択し実施する。
- * 16. 糖尿病性腎症の食事療法等保存的療法を施行し透析の適応を評価する。
- * 17. シックデイ、ケトアシドーシス、非ケトン性高浸透圧性昏睡の評価、治療を行う。
- * 18. フットケア、歯周病を理解し指導や治療を行う。
- * 19. 糖尿病教室、患者会学習会など教育計画を立案し実施するとともに小児糖尿病サマーキャンプなど糖尿病協会活動を理解し事業に参加する。

* 20. 甲状腺超音波検査、aspiration biopsy を施行し結果を評価する。

* 21. 頸動脈エコー、眼動脈エコー、サーモグラフィー、ABI, TBI 測定検査を施行し結果を評価する。

* 22. 各種内分泌疾患、肥満症の診断、治療を計画し実施する。

5) 教育体制：上記指導医のほかに経験豊富な糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師、臨床検査技師、栄養士とともにチーム医療を行っており実質的な幅広い学習研修が可能である。

6) 週間スケジュール

		午前	午後
月	外来診療、病棟回診	頸動脈エコー	甲状腺超音波検査
火	外来診療、病棟回診	頸動脈エコー	サーモグラフィー、ABI/TBI、フットケア 糖尿病回診、ミーティング症例検討会
水	外来診療、病棟回診	頸動脈エコー	サーモグラフィー、ABI/TBI、フットケア
木	外来診療、病棟回診	頸動脈エコー	サーモグラフィー、ABI/TBI、フットケア
金	外来診療、病棟回診	頸動脈エコー	甲状腺超音波検査、糖尿病教室

緩和ケア内科 (選択科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

臨床医として必要な、進行がん患者の苦痛評価とその介入法の知識・技術・態度を習得するとともに、チーム医療を実践できる協調性を獲得することを目標とする。

2) 施設認定：日本緩和医療学会

3) 指導医

清水 啓二 部長

- 日本緩和医療学会専門医
- 日本外科学会認定登録医
- がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会指導者

指導者

金井 友宏 医 長

- 日本内科学会認定内科医
- 日本呼吸器学会呼吸器専門医
- 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医

4) 研修内容と到達目標

- ①苦痛の評価と緩和治療・ケア (疼痛、疼痛以外の身体症状、心理社会的問題、スピリチュアルな問題)
- ②コミュニケーション (患者・家族への病状・予後・悪い知らせを伝える、感情への対応など)
- ③カンファレンス (患者・家族の問題点をまとめ、治療・ケア方針を他職種と協議する)

5) 研修体制

緩和ケア病棟において、指導医とともに毎日入院患者の診察や治療・ケア・IC を見学する。治療経過や薬剤選択について理解し、カルテ記載などを行う。緩和ケアチームにおける他科からの依頼に対するコンサルテーションを見学する。外来における家族面談を見学する。

6) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	申し送り 病棟回診 新入院	申し送り 病棟回診 新入院	申し送り 病棟回診 新入院	申し送り 病棟回診 新入院	申し送り 病棟回診 新入院
午後	入院面談 (院内) など	入院面談 (院外)	入院面談 (院内) など	入院面談 (院外) 緩和ケアチーム など	入院面談 (院外)

脳神経内科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

内科研修の期間内に神経学的な診断学“Three step diagnosis”の基本を習得する。内科診断学の基本である病歴聴取が、神経疾患をもつ患者において、いかに重要であるかをこの研修期間内に再認識する。また、基本的な神経学的診察法を入院患者に対して行い、病巣部位診断のプロセスを体験し習得する。さらに、診断確定のための検査計画の立て方、検査依頼の実際を経験する。診断確定後の治療についてもポピュラーな疾患については、治療法、治療計画について経験する。チーム医療の実際を体験する。

2) 施設認定：日本神経学会

3) 指導医

竹内 潤 部長 日本内科学会認定内科医
 日本神経学会神経内科専門医
 難病指定医
 大阪市身体障害者指定医 (肢体不自由)

指導者

木村 裕子 医 長 日本内科学会認定内科医
 日本神経学会神経内科専門医
 難病指定医

4) 研修内容と到達目標 (*の項目は後期選択時)

病歴聴取

指導医の外来に同席し、外来初診患者の病歴聴取を見学する。

研修期間中に入院した患者の病歴聴取を行う。

目標：聴取した病歴を鑑別診断を想定した上で、要領よく記載できる。

神経学的所見

指導医の外来に同席し、外来初診患者の神経学的診察を見学する。

研修期間中に入院した患者の神経学的診察を行う。

目標：神経学的診察法および記載法を身につける。

診断過程

病歴聴取、神経学的所見から得られた情報から病変の性質、病巣の部位、鑑別診断を類推するトレーニングを行う。

目標：診断過程に必要な基礎知識を習得する。

検査計画

初診外来で行われている検査計画を体験する。

入院患者に対して実際に検査計画を立て、指導を受ける。

目標：神経内科領域の検査法の内容、特徴を知る。

画像診断

頭部、頸部、その他の部位に対する単純写真、CT、MRI

目標：正常解剖、基本的読影の手順、依頼上の注意点を知る。

*頸動脈超音波

目標：正常解剖、異常所見を知る。

生理検査

脳波

目標：正常脳波、異常脳波の典型を知る。脳波検査の限界を知る。

針筋電図

目標：神経原性変化、筋原性変化の特徴を知る。

神経伝導検査

目標：神経伝導の生理と異常所見発現のメカニズムを理解する。

検体検査

髄液検査

目標：髄液検査の適応、禁忌、手技、判定を知る。

*適応症例があれば実際に行う。

血液検査

目標：典型的症例の検査診断学の概要を体験する。

治療

外来患者（診断確定例）に対する診療に接し、指導医の処方を見学する。

入院患者における病態に応じた治療計画の実際を見学する。

目標：神経内科領域の治療薬の分類、特徴、適応、禁忌、用法を習得する。

チーム医療の実践として他職種とのカンファレンスに参加し、退院予定患者の在宅医療への移行をスムーズに行なう。

5) 教育体制

外来診療、病棟診療、検査、カンファレンスに参加することにより、神経内科診療の基本を修得する。

6) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟回診	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 外来	病棟回診 外来
午後	カンファレンス	電気生理検査	病棟回診	電気生理検査	カンファレンス 症例検討会 電気生理検査

精神科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的) 1ヶ月間のローテーション用のプログラムである。

当院精神科では午前中は外来にて再診患者診察に陪席。午後は初診患者診察、病棟患者往診に陪席する。うつ状態や認知症、緩和ケアなどの診療の実際を学びレポート作成を行う。

大阪さやま病院での実習は、精神科単科病院としての役割を理解しながら、精神科入院治療の実際とその関連法規、リハビリテーション、地域支援体制についての学び、レポート作成にもあたる。

2) 施設認定：日本精神神経学会 医療法人六三会さやま病院 医療法人杏和会阪南病院

3) 指導医

江村 成就 部長	<input type="checkbox"/> 精神保健指定医 <input type="checkbox"/> 日本精神神経学会精神科専門医・指導医 <input type="checkbox"/> 日本睡眠学会睡眠医療認定医 <input type="checkbox"/> 日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医・指導医 <input type="checkbox"/> 日本老年精神医学会認定医・指導医
阪本 栄 大阪さやま病院 院長	<input type="checkbox"/> 精神保健指定医 <input type="checkbox"/> 日本神経学会臨床認定医 <input type="checkbox"/> 日本リハビリテーション医学会臨床認定医 <input type="checkbox"/> 日本医師会認定産業医
上田 敏朗 大阪さやま病院 副院長	<input type="checkbox"/> 精神保健指定医
黒田 健治 阪南病院 院長	<input type="checkbox"/> 精神保健指定医 <input type="checkbox"/> 日本睡眠学会認定医 <input type="checkbox"/> 日本心身医学会研究指導医 <input type="checkbox"/> 日本精神神経学会専門医・指導医 <input type="checkbox"/> 医療観察法における判定医
横田 伸吾 阪南病院 副院長	<input type="checkbox"/> 精神保健指定医・判定医 <input type="checkbox"/> 日本精神神経学会専門医・指導医 <input type="checkbox"/> 臨床心理士 <input type="checkbox"/> 児童青年精神医学会認定医

4) 教育内容と到達目標

- ①基本的な面接技法・精神症状の捉え方の基本を身に付ける。
- ②精神疾患に対する初期的対応と治療の実際を学ぶ。
- ③社会復帰や地域支援体制を理解する。
- ③関連法規の概要を理解する。

5) 週間スケジュール

	前半2週間	後半2週間
月	大阪鉄道病院 精神神経科外来 病棟回診	大阪さやま病院 / 阪南病院 病棟回診
火	大阪鉄道病院 精神神経科外来 病棟回診	大阪さやま病院 / 阪南病院 病棟回診
水	大阪鉄道病院 精神神経科外来 病棟回診	大阪さやま病院 / 阪南病院 病棟回診
木	大阪鉄道病院 精神神経科外来 病棟回診	大阪さやま病院 / 阪南病院 病棟回診
金	大阪鉄道病院 精神神経科外来 病棟回診	大阪さやま病院 / 阪南病院 病棟回診

- 倫理カンファレンス
- 認知症せん妄ケアチームラウンド
- 緩和ケアチームラウンド

皮膚科 (選択科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

皮膚の構造、機能、病態生理について基本的知識を修得する。主要な皮膚疾患の発生病理、診断法および治療法についての知識と技術を修得する。また、皮膚科関連領域の知識と技術を修得する。

2) 施設認定：日本皮膚科学会

3) 指導医

遠藤 英樹 部長

- 日本皮膚科学会認定皮膚科専門医
- 日本皮膚科学会美容皮膚科・レーザー指導専門医
- 日本レーザー医学会レーザー専門医・指導医
- 日本アレルギー学会アレルギー専門医
- 日本医師会認定産業医
- 難病指定医

指導者

奥 葵 医師

4) 研修内容と到達目標

- ①皮膚の構造と機能を説明できる。
- ②皮膚疾患の診断に必要な免疫学的検査（皮内テスト、スクラッチテスト、貼付試験など）、光線検査（MED、MPD、光貼付試験など）、病理組織学的検査、直接鏡検（真菌、疥癬虫、毛包虫など）、血液検査などを行い、その結果を判定できる。
- ③光線療法（PUVA、UVB、NB-UVB）、液体窒素冷凍凝固療法、炭酸ガスレーザー焼灼療法、一般外科の手技、軟膏療法、密封療法を熟知し、的確に実施できる。
- ④各種皮膚疾患（アトピー性皮膚炎、乾癬、膠原病、血管炎など）を臨床的、病理組織学的に診断し、局所療法および全身療法が行える。

5) 教育体制 (研修体制)

最初は指導医のもとに、外来診療の補助を行いながら、主要な皮膚疾患について病態生理、検査法、診断法、治療法を修得する。それ以降は実際に主治医として患者を受け持つ。

6) 週間スケジュール

	午前	午後
月	外来診療	各種検査、処置
火	外来診療	各種検査、処置、褥瘡回診
水	外来診療	各種検査、処置
木	外来診療	各種検査、処置
金	外来診療	各種検査、処置

放射線科(選択科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

各種画像診断の原理、適応、画像所見を理解し、検査結果を総合的に判断し、治療へと結びつ的確な診断力を修得することを目的とする。診断学の進歩とともに発達したinterventional radiology (IVR)について十分な知識と手技を修得する。放射線治療においては、適応、効果、副作用についての理解を深める。

2) 施設認定： 日本医学放射線学会

3) 指導医

- | | |
|----------|---|
| 加藤 武晴 部長 | <input type="checkbox"/> 日本医学放射線学会診断専門医 |
| | <input type="checkbox"/> 日本IVR学会専門医 |
| | <input type="checkbox"/> 日本核医学会PET核医学認定医 |
| | <input type="checkbox"/> 検診マンモグラフィ読影認定医 |
| | <input type="checkbox"/> 日本医学放射線学会研修指導者 |
| | <input type="checkbox"/> 臨床研修指導医養成講習会修了 |
| 道本 幸一 部長 | <input type="checkbox"/> 日本医学放射線学会放射線治療専門医 |
| | <input type="checkbox"/> 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 |
| | <input type="checkbox"/> 臨床研修指導医養成講習会修了 |

指導者

- | | |
|-----------|--|
| 豊辻 智則 医 長 | <input type="checkbox"/> 日本医学放射線学会診断専門医 |
| | <input type="checkbox"/> 日本医学放射線学会研修指導者 |
| | <input type="checkbox"/> 肺がんCT検診認定医師 |
| | <input type="checkbox"/> 日本核医学会核医学専門医 |
| | <input type="checkbox"/> 日本核医学会PET核医学認定医 |
| | <input type="checkbox"/> 検診マンモグラフィ読影認定医 |
| | <input type="checkbox"/> 日本医師会認定産業医 |
| 三和 大悟 医 長 | <input type="checkbox"/> 日本医学放射線学会診断専門医 |

4) 到達目標

- ①胸部、腹部単純写真の読影ができるようになる。
- ②各種画像診断での画像解剖を修得する。
- ③各種疾患の画像的特徴についての理解を得る。
- ④画像上の異常所見から導き出される鑑別診断法を修得する。
- ⑤画像診断を通じて各種疾患の進行度 (staging分類) が判定できるようにする。
- ⑥造影剤についての様々な利用法 (ダイナミック、3D, CT angio, angio CT、DIPなど) について理解を深める。
- ⑦診断レポートの作成の仕方について修得する。
- ⑧診断学の応用としてのinterventional radiologyについて手技、方法、治療成績、合併症の理解を深める。血管造影検査は動脈穿刺、カテーテル、ガイドワイヤー手技の基本手技をマスターし、一次分岐の血管のカテーテル挿入ができるのを目標とする。
- ⑨核医学検査における各種RIについての理解を深め、各疾患における画像的特徴についての知識を得る
- ⑩放射線治療に際しての患者のインフォームドコンセント、治療の説明の仕方、Linacによる放射線治療の適応、治療方法 (CT simulator, 治療計画装置)、副作用の理解を深める。

5) 研修体制

- ①指導医のもとに、血管造影・IVR検査にはいり、個人指導を受ける。また、造影剤の副作用対応についても指導を受ける。
- ②長期研修は各研修項目を週間予定表にしたがって片寄りのないように行う。
- ③短期研修は希望に応じて研修項目を選択的に行う。
- ④研修期間を通じて各種診断学、IVR、核医学、放射線治療学の代表的書物（読影室に完備）、文献を通読する。
- ⑤院内、院外の各種カンファレンス、研究会に参加し、他科に積極的にコンサルトを行う。
- ⑥学会発表、論文作成（できれば症例報告を1編）の指導を通じて医学の発展に貢献する。

6) 週間スケジュール

	午前	午後
月	CT	MRI 一般読影 RI
火	MRI	CT 一般読影 RI
水	CT	angio IVR キャンサーボード
木	MRI	CT MRI RI
金	放射線治療外来	放射線治療外来

外 科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

外科に1ヶ月間ローテイトし、外科学の基本的な手技、術前・術後管理、手術の実際を研修し、臨床医としての基礎を修得することを目的とする。

2) 施設認定：日本外科学会、日本消化器外科学会

3) 指導医

- | | | |
|------------|--------------------------|--------------------------------|
| 上田 祐二 院長 | <input type="checkbox"/> | 日本消化器外科学会指導医・専門医・認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本外科学会指導医・専門医・認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本がん治療認定医機構暫定教育医・認定医・指導責任者 |
| | <input type="checkbox"/> | 京都府立医科大学臨床教授(消化器外科学) |
| | <input type="checkbox"/> | 日本医師会認定産業医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 |
| 赤見 敏和 診療部長 | <input type="checkbox"/> | 日本消化器外科学会専門医・指導医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本外科学会指導医・専門医 |
| 玉井 秀政 部長 | <input type="checkbox"/> | 日本外科学会専門医・指導医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本消化器外科学会専門医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | ICD (infection control doctor) |
| 大陽 宏明 副部長 | <input type="checkbox"/> | 一般社団法人日本外科学会外科専門医・指導医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本消化器外科学会消化器外科専門医・指導医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本内視鏡外科学会技術認定 (消化器・一般外科) |

指導者

- | | | |
|------------|--------------------------|--------------------------------|
| 荻野 史朗 医 長 | <input type="checkbox"/> | ICD (infection control doctor) |
| 小見山 聡介 医 長 | <input type="checkbox"/> | 日本外科学会専門医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本消化器外科学会専門医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本がん治療認定医機構がん治療認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本内視鏡外科学会技術認定医 (消化器・一般外科 胃) |
| 坂井 利規 医 長 | <input type="checkbox"/> | 日本外科学会専門医 |
| | <input type="checkbox"/> | 日本透析医学会透析専門医 |
| | <input type="checkbox"/> | 検診マンモグラフィー読影認定医 |
| 鈴木 啓史 医 長 | <input type="checkbox"/> | 日本外科学会外科専門医 |
| | <input type="checkbox"/> | 呼吸器外科専門医 |
| 小林 澄 医 長 | <input type="checkbox"/> | 乳がん検診マンモグラフィー読影認定医 |
| | <input type="checkbox"/> | 乳がん検診超音波検査実施・判定医 |

4)到達目標

- ①**基本的手技**：穿刺法(腹腔、胸腔)、導尿、浣腸、消毒法、手術手洗い、糸結びガーゼ交換、包帯法、局所麻酔法、切開排膿法、皮膚縫合、軽症の外傷の処置、ドレーン・チューブ類の管理、皮膚良性腫瘍摘出術
- ②**基本的検査法**：直腸指診、肛門鏡、直腸鏡、超音波検査(乳腺・甲状腺)、腹部・胸部(乳腺を含む)の診察、単純X線・造影X線・X線CTの読影
- ③**術前・術後管理**：胃管挿入、胃洗浄、IVH鎖骨穿刺、イレウス管挿入、輸液、高カロリー輸液、経腸栄養、成分輸血、術後合併症とその対策
- ④**救急患者に対するプライマリーケアの対応と管理**
- ⑤**手術の実際**：胸・腹部の手術に第二又は第三助手として入り、手術を実地体験する
- ⑥26疾病・病態を有する患者の診療にあたり、少なくとも1例は外科手術に至った症例の手術要約を提出すること

5) 研修体制：外科病棟に於いて、指導医とともに患者を受け持ち、外科診療技術を修得する。週間スケジュールのうち、週1回外来診療につく。また病棟回診は外来出番及び手術に入るもの以外毎日行われるので、自分の受け持ち患者以外についてもその病態の把握に努める。受け持ち患者の手術には必ず入るが、それ以外にもほぼ毎日第二助手又は第三助手として手術に参加し、基本手技の修得に努める。外科指導医の誰かが当直をするときは、副直となり病棟での救急処置や時間外患者の救急処置について学ぶ。

6) 外科・胸部外科週間スケジュール

	AM		PM							
	9時	10	11	12	1	2	3	4	5	6時
月	手術 (麻酔科管理)									
	外来診療									
	病棟回診									
火	外来診療			手術 (腰麻・局麻)			外科症例検討会			
	病棟回診			各種検査・処置						
水	手術 (麻酔科管理)									
	外来診療									
	病棟回診			がんセンター ボード						
木	外来診療			手術 (腰麻・局麻)						
	病棟回診			各種検査・処置						
金	手術 (麻酔科管理)									
	外来診療									
	病棟回診									

*到達目標 (2年目外科選択)

1年目の修練内容に更に習熟し、加えて指導医の指導の下に以下の事項を目標とする。

- ①腹部・胸部手術の開腹・閉腹、開胸・閉胸ができる。
- ②胸腹部手術の第Ⅰ～第Ⅱ助手となり、一年目に比べ更に高度な手術体験をする。
- ③鼠径ヘルニア手術ができる。
- ④末期癌患者の治療に携わること。
- ⑥蘇生術の体験、死亡の確認の体験をする。

整形外科 (選択科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

整形外科にて 1~3 ヶ月間の研修を行い、整形外科的な診察や処置などの基本手技、術前・術後管理、手術などを研修し臨床医としての素養を身につけることを目的とする。

2) 施設認定：日本整形外科学会

3) 指導医

小西 定彦 副院長

- 日本整形外科学会専門医
- 日本脊椎脊髄病学会認定脊椎脊髄外科指導医
- 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医

上村 卓也 部長

- 日本整形外科学会専門医
- 日本手外科学会手外科専門医・指導医
- 日本整形外科学会認定リウマチ医
- 日本整形外科学会認定スポーツ医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医

高橋 信太郎 副部長

- 日本整形外科学会専門医
- 日本人工関節学会認定医
- 難病指定医

指導者

安田 宏之 副部長

- 日本整形外科学会専門医
- 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
- 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医

山村 一正 医 長

- 日本整形外科学会専門医
- 日本整形外科学会認定リウマチ医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- 日本人工関節学会認定医

寺川 雅基 医 長

- 日本整形外科学会専門医
- 日本整形外科学会認定脊椎脊髄病医
- 日本整形外科学会認定リウマチ医
- 日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科指導医

足立 拓矢 レジデント

調子 智一 レジデント

4) 研修内容と到達目標

- ①**基本的処置手技** (各種注射、採血、穿刺、導尿、ガーゼ交換、ドレーン管理、胃管挿入、滅菌消毒、簡単な切開、皮膚縫合、包帯法)
- ②**基本的診断手技** (整形外科的診察手技；骨・関節・筋・神経の診察、徒手筋力テスト、日整会各種機能評価判定基準、各種画像診断；骨・関節の X 線、各種造影検査、CT、MRI、エコー、シンチグラム、骨塩定量、神経電気生理学的検査：EMG、NCV、関節穿刺、関節鏡検査)
- ③**術前・術後管理** (術野の保清：剃毛、除毛、ブラッシング、輸液、輸血、呼吸循環管理、中心静脈栄養法、経腸管栄養法、

合併症対策など)

④保存療法 (関節内注射、神経ブロック、ギプス包帯、副子の使用法、脱臼整復、牽引治療、理学療法)

⑤手術療法 (筋・腱縫合、骨接合術、関節切開、開放性骨折の救急処置など)

5) 研修体制：外来 (指導医の診察につき基本的処置手技、基本的診断手技を習得する。)

病棟 (指導医のもとで数人の患者を受け持ち術前術後管理、保存的治療、患者・家族との対応、インフォームドコンセントなどを習得する。)

手術 (指導医について受け持ち患者の手術助手を行い、手術手技を習得する。)

6) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来診療 病棟回診 手術	外来診療 病棟回診 手術	外来診療 病棟回診 手術	外来診療 病棟回診 手術	外来診療 病棟回診 手術
午後	手術	検査 手術	手術	手術	手術

産婦人科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

産婦人科を1ヶ月間ローテイトし、産婦人科学の基本的な手技、分娩介助、術前・術後管理、手術の実際を研修し、臨床医としての基礎を修得することを目的とする (なお、3ヶ月間、選択科としてのプログラムが追加された場合、カリキュラムの中の*が追加される)

2) 施設認定: 日本産科婦人科学会

3) 指導医

坂井 昌弘 部長

- 日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医
- 母体保護法指定医
- 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医 (腹腔鏡下手術・子宮鏡下手術)
- 日本内視鏡外科学会技術認定医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医・指導医
- 日本医師会認定産業医

熊谷 広治 担当部長

- 日本産科婦人科学会産婦人科専門医・指導医
- 母体保護法指定医
- 日本臨床細胞学会細胞診専門医
- 日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医・指導医
- 臨床遺伝専門医制度委員会臨床遺伝専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 臨床研修指導医養成講習会修了

大道 正英 大阪医科薬科大学病院 教授

- 日本産科婦人科学会専門医
- 婦人科腫瘍専門医/専門婦人科腫瘍学

林 正美 大阪医科薬科大学病院 准教授

- 産婦人科専門医
- 生殖医療専門医/専門生殖医学

藤田 太輔 大阪医科薬科大学病院 講師

- 産婦人科専門医
- 周産期専門医
- 超音波専門医
- 臨床遺伝専門医/専門周産期医学

恒遠 啓示 大阪医科薬科大学病院 講師

- 産婦人科専門医
- 婦人科腫瘍専門医
- 癌治療認定医
- 内視鏡技術認定医/専門婦人科腫瘍学

田中 智人 大阪医科薬科大学病院 講師

- 産婦人科専門医
- 婦人科腫瘍専門医
- がん治療認定医
- 内視鏡技術認定医/専門婦人科腫瘍学

4) 研修カリキュラム（1ヶ月間のプログラムおよび3ヶ月間のプログラム）

I. 産科の臨床

- ①生殖生理学の基本を理解すること
 - a. 母体の生理
 - b. 胎児の分化, 発育の生理
 - c. 胎盤の生理
 - d. 羊水の生理
 - e. 分娩の生理
 - f. 産婦人科の生理
- ②正常妊娠, 分娩, 産褥の管理（プライマリケアを行い得ること）
- ③妊, 産, 褥婦の薬物療法（母児双方の安全性を考慮した薬物療法を行い得ること）
- ④産科検査（少なくとも各検査法の原理と適応を理解し, またそのデータにより適切な臨床判断をなし得ること）
 - a. 妊娠の診断法
 - b. 超音波検査法
 - c. 胎児, 胎盤機能検査法
 - d. 分娩監視装置による検査法
 - e. X線検査法
 - f. その他
- ⑤産科手術の修得（手技を見学し, 基本手技の修得に努める）
 - a. 子宮内容除去術
 - b. 鉗子・吸引分娩術
 - c. 骨盤位娩出術
 - d. 帝王切開術（手術の助手を努めた経験のあること）
- ⑥産科麻酔と全身管理（麻酔法の種類と適応を理解すること）
- ⑦新生児の管理
 - a. 新生児の生理を理解すること
 - b. 正常新生児を管理すること
 - c. 新生児異常のスクリーニングを行い得ること

II. 婦人科の臨床

- ①婦人の解剖, 生理学を理解すること。
 - a. 腹部, 骨盤, 泌尿生殖器, 乳房の解剖学
 - b. 泌尿生殖器の発生学
 - c. 性機能系の生理学
- ②婦人科疾患の取扱い
 - a. 感染症（性病を含む）の診断, 治療を行い得ること。
 - b. 腫瘍
良性腫瘍（エンドメトリオーシスを含む）、診断を行い得、治療についての一般的知識を有すること。
悪性腫瘍、少なくとも早期診断, 病理, 治療についての一般的知識を有すること。
 - c. 内分泌異常（発育, 性分化異常を含む）、一般治療に必要な知識を有すること。
 - b. 不妊症、一般治療に必要な知識を有すること
 - e. 性器の垂脱、診断を行い得ること
 - f. 検査, 診断を行い得ること
- ③婦人科疾患の全身管理を行い得ること
 - a. 救急時の全身管理
 - b. 輸液
 - c. 輸血
 - d. 薬物療法

④婦人科手術

a. 以下の手術の助手を努めた経験のあること

子宮内容除去術

*付属器摘出術、単純子宮全摘出術（腹式）

*単純子宮全摘出術（腔式）

*子宮脱に対する根治手術

b. 悪性腫瘍の根治手術の種類，特徴など基礎的事項を理解していること

⑤放射線療法

放射線療法の種類，特徴など基礎的事項を理解していること

5) 週間スケジュール

【大阪鉄道病院】

	月	火	水	木	金
午前	外来診療 病棟診療	外来診療 手術	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療 手術	外来診療 病棟回診
午後	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療 手術	外来診療 病棟診療	外来診療 病棟診療 手術	外来診療 病棟診療

【大阪医科薬科大学病院】

	月	火	水	木	金	土
午前	周産期 カンファレンス・レビュー 外来/病棟	手術/外来/病棟	婦人科腫瘍 カンファレンス 外来/病棟	手術/外来/病棟	外来/病棟	外来/病棟
午後	病棟 総回診	手術/外来/病棟	病棟 レクチャーシリーズ（腫瘍・ 不妊内分泌・周産期・内視鏡・骨盤底 外科/更年期女性）	手術/外来/病棟	術前術後症例検討 会	

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 (選択科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

短期のローテーション期間中に習得できることは限られているので、手術の経験を重点項目とし、また耳鼻咽喉科・頭頸部外科の基本的な診察法とよく遭遇する疾患の理解を基本とした研修内容とする。

2) 施設認定：日本耳鼻咽喉科学会

3) 指導医

鈴木 倫雄 副部長

日本耳鼻咽喉科学会認定専門医・専門研修指導医

大阪市難病指定医

大阪市障害認定医 (聴覚平衡機能音声・言語・そしゃく)

指導者

古川 昌吾 医 長

4) 研修内容と到達目標：耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の基礎的知識と基本的な診察法を習得する。

①耳、鼻、咽喉頭の視診並びに頸部触診ができる。

②耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の解剖学的生理学的特徴を理解する。

③よく出会う疾患 (中耳炎、難聴、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、鼻出血、扁桃炎、反回神経麻痺、甲状腺腫瘍など) の診断と基本的治療法を習得する。

④入院患者さんの副担当となり指導医とともに治療を担当する。

⑤手術は第一または第二助手となり実地体験する。場合によっては指導医の指示で執刀医となる。

5) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	外来診療 (補助)	手術	外来診療 (補助)	外来診療 (補助)	外来診療 (補助)
午後	検査 病棟回診	手術 病棟回診	検査 病棟回診	検査 手術 病棟回診	病棟回診

眼 科 (選択科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

眼科診療の基礎を理解し、基本的な診療方法を習得することに重点を置く。

2) 施設認定：日本眼科学会

3) 指導医

細 島 淳 部 長 日本眼科学会専門医

指導者

川 口 紀 子 副 部 長 日本眼科学会専門医

元 村 恵 理 レジデント

4) 研修内容と到達目標：日常的な眼科診療に必要な基礎的知識と技術を習得する。

①眼科臨床に必要な基礎的知識の習得

②眼科診断および検査技術の習得

視力検査、眼圧測定、眼底検査、細隙灯顕微鏡検査、電気生理学的検査、視野検査、超音波、蛍光眼底造影検査

③眼科治療技術の習得

基本的治療手技 (点眼、結膜下注射、テノン嚢下注射)、眼鏡処方、入院患者の処置

伝染性眼疾患の診断と治療および予防、眼外傷の救急処置、急性眼疾患の救急処置

④手術の実際

白内障手術、硝子体手術、網膜光凝固、眼瞼手術

5) 研修体制

眼科病棟においては、指導医とともに3-5名の患者を受け持ち、眼科診療技術を習得する。外来においても指導医のもとで、視力検査、眼圧測定、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、超音波、蛍光眼底造影検査法などを実際に経験する。

6) 週間スケジュール

	午前	午後
月	外来診療	各種検査、レーザー治療
火	外来診療、手術	手術
水	外来診療	各種検査、レーザー治療
木	外来診療、手術	手術
金	外来診療	特殊検査・処置

泌尿器科 (選択科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴：1～3ヶ月ローテートする研修医のためのプログラムである。

2) 施設認定：日本泌尿器科学会

3) 指導医

米田 幸生 部長

- 日本泌尿器科学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医

指導者

森本 和也 副部長

- 日本泌尿器学会専門医・指導医
- 日本ミニマム創泌尿器内視鏡学会施設基準医
- 日本透析医学会専門医
- 日本泌尿器内視鏡学会腹腔鏡技術認定医

安田 麻衣子 レジデント

4) 研修内容

①泌尿器科の基本的検査法の理解

内視鏡・尿道造影・腎盂造影・腎血管造影・RI検査、ウロダイナミックス・超音波検査 等

②泌尿器科の基本処置

各種カテーテルの知識と留置の手技、尿路の確保、尿管の確保

③救急患者の診断と処置

尿閉の診断と処置、結石患者の診断と処置、尿道外傷、腎外傷の診断と処置、尿路感染症の診断と処置

④泌尿器科の基本的療法の理解

感染症、腫瘍の鑑別、排尿障害

⑤泌尿器科手術の助手

5) 教育体制

指導医と共に入院患者を受け持つ。また外来においては泌尿器科の基本処置を行う。

手術においては手洗い等の手術室における基本的技術の習得と助手として手術に参加する。

6) 週間スケジュール：基本的に各指導医の指示に従う。

	月	火	水	木	金
午前	外来処置 病棟回診	外来処置 病棟回診	外来処置 病棟回診	外来処置 病棟回診	外来処置 病棟回診
午後	検査	手術	手術	手術	検査

リハビリテーション科 (選択科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

臨床医に必要と思われるリハビリテーションの基礎知識、回復期リハビリテーション病棟における患者ケアに必要な診療技能の習得、およびチーム医療に必要な資質・能力の涵養を目標とする。また、すべての臨床医に必須の知識でありながら、他の診療科でトピックとして取り上げられることが少ないと思われる、臨床生理学の基礎知識、摂食嚥下障害のマネジメント、臨床栄養学と栄養療法の習得を目指す。研修に当たっては脳神経内科のローテートを終了していることが望ましいが、未終了の場合は適宜に臨床神経学的な説明を加える。

2) 施設認定：なし

3) 指導医

山本 孝徳 部長 日本神経学会専門医
 日本内科学会総合内科専門医
 日本臨床神経生理学会専門医 (筋電図・神経伝導分野・脳波分野)

指導者

福井 大修 医 長

4) 研修内容と到達目標：

①総論

リハビリテーション医学・医療の意義 (「活動を育むとは」「機能を回復するとは」「障害を克服するとは」)

②リハビリテーション診断

- ・問診 (とくに併存疾患、既往歴、ADL レベル、社会的背景の確認)
- ・身体診察 (脳神経系、運動器、循環・呼吸器、その他)
- ・心身機能の評価法 (NIHSS と SIAS)
- ・ADL・QOL の評価法 (基本的ADL と手段的ADL、modified Rankin Scale、Barthel Index、Functional Independence Measure)

③リハビリテーション診療における重要事項についての理解と対策

- ・リハビリテーション診療に関連して生じる可能性がある有害事象
- ・サルコペニア・ロコモティブシンドローム・フレイル
- ・認知症
- ・栄養管理と摂食嚥下障害

④回復期リハビリテーション病棟についての基礎知識

5) 教育体制

回復期リハビリテーション病棟において、指導医とともに入院患者を受け持ち、主として脳血管障害患者の診療技術を習得する。各患者に毎月実施される多職種共同カンファレンスに参加することで、患者マネジメントの実際を学習する。希望者には別途に時間を設けて、神経伝導検査の「基本原理」についてレクチャーする (1時間)。

6) 週間スケジュール

	午前	午後
月	病棟回診・指示出し、新入院	患者家族へのIC、カンファレンス
火	病棟回診・指示出し、新入院	患者家族へのIC、カンファレンス
水	病棟回診・指示出し、新入院	患者家族へのIC、カンファレンス
木	病棟回診・指示出し、新入院	患者家族へのIC、カンファレンス
金	病棟回診・指示出し、新入院	患者家族へのIC、カンファレンス

麻酔科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

麻酔科研修は、手術室において手術の麻酔をおこなう。

麻酔指導医と共に様々な手術の麻酔管理をおこない、麻酔の基礎的な知識を学びながら、臨床医として必要な静脈確保、気道確保、人工呼吸、気管挿管、くも膜下穿刺などの手技を修得する。また、手術の全身麻酔管理から呼吸循環管理の基礎を研修する。

2) 施設認定：日本麻酔科学会 麻酔科認定病院

3) 指導医

岩 阪 友 裕 副 院 長

- 日本専門医機構麻酔科専門医
- 日本麻酔科学会認定指導医・麻酔科認定医
- 麻酔科標榜医
- 日本ペインクリニック学会専門医

指導者

栗 田 直 子 部 長

4) 研修内容と到達目標

【研修内容】

【到達目標】

(1) 術前診察と術前評価

必要な術前検査とその評価
全身状態の把握と評価
麻酔方法の選択と麻酔計画

必要な術前検査を理解し評価できる
全身状態の問題点を把握できる
適切な麻酔方法が選択できる

(2) 全身麻酔器の取り扱い

全身麻酔器の知識と準備
全身麻酔器の使用

全身麻酔器の構造を理解し準備ができる
全身麻酔器の基本的な操作ができる

(3) 全身麻酔に必要な基本的手技

静脈確保
気道確保
人工呼吸
気管挿管
抜管
声門上器具
静脈採血と動脈採血
輸液と輸血
人工呼吸器の使用法

適切な穿刺部位に挿入できる
気道確保を理解し実践できる
適切に確実な人工呼吸ができる
(ビデオ) 喉頭鏡を使い挿管し確認できる
抜管の基準を理解し、安全に抜管できる
声門上器具の適応を理解し使用できる
適切な部位で安全に採血できる
輸液輸血療法の基礎的な知識を学ぶ
基本的な人工呼吸器の設定を学ぶ

(4) モニターの解析と評価

心電図
非観血的血圧測定
観血的動脈圧測定
パルスオキシメータ
カプノメータ

各モニターの基礎的な知識を身に付け、解析・評価できる

麻酔ガス濃度
 筋弛緩モニター
 体温モニター
 Vigileo monitor

(5) 全身麻酔

全身麻酔の構成要素
 全身麻酔に必要な薬剤

全身麻酔に必要な各要素を修得する
 麻酔関連薬の知識を修得する

全身麻酔の方法
 呼吸循環管理

各薬剤の薬理学的効果、基本的な投与方法を学ぶ
 基本的な全身麻酔の流れが理解し実践できる
 呼吸補助から人口呼吸法まで理解し実践できる
 各モニターを評価し適切な呼吸循環管理ができる

合併症に対する麻酔管理
 術後鎮痛法

合併症に対する必要な管理を学ぶ
 術後の疼痛管理方法を学ぶ

(6) 脊髄くも膜下麻酔

局所麻酔
 適応と合併症
 くも膜下穿刺
 脊髄くも膜下麻酔

局所麻酔の知識を習得し穿刺部局所麻酔ができる
 脊髄くも膜下麻酔の適応をと合併症を理解習得する
 平易な症例において手技を学ぶ
 麻酔管理を学ぶ

(7) 硬膜外麻酔

適応と合併症
 硬膜外麻酔の管理

硬膜外麻酔の適応と合併症について学ぶ
 硬膜外麻酔の特徴を理解し麻酔管理を学ぶ

4) 教育体制

麻酔指導医と共に麻酔管理をおこなう

術前診察をおこない麻酔計画を立て、指導医と事前にミーティングをおこない適した麻酔方法を選択し、麻酔管理を研修する
 麻酔管理終了後は、指導医と問題点を共有し、レベルアップにつなげる

5) 週間スケジュール

月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
麻酔管理 術後診察 術後診察 ミーティング	麻酔管理 術後診察 術後診察 ミーティング	麻酔管理 術後診察 術後診察 ミーティング	麻酔管理 術後診察 術後診察 ミーティング	麻酔管理 術後診察 術後診察 ミーティング

救命救急科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

基本的な研修は、2 ヶ月間大阪警察病院【ER・総合診療センター】においておこない、外来診療を中心とした診療能力の開発と適切な問題解決能力を習得する。さらに、患者の病態、QOL、社会的状況と医学的適応を考慮した医療を実践することを目的とする。

2) 施設認定：日本麻酔科学会 麻酔科認定病院

3) 指導医

水島 靖明	大阪警察病院	ER・救命救急センター	総センター長	<input type="checkbox"/>	日本救急医学会救急科専門医
上尾 光弘	大阪警察病院	ER・救命救急科	部長	<input type="checkbox"/>	日本救急医学会救急科専門医
山田 知輝	大阪警察病院	ER・救命救急科	副部長	<input type="checkbox"/>	日本救急医学会救急科専門医
小川 新史	大阪警察病院	ER・救命救急科	医 長	<input type="checkbox"/>	日本救急医学会救急科専門医

4) 研修内容と行動目標

到達目標1 習得すべき診察法・検査・手技

- ①初診医療面接
- ②身体診察 (スクリーニング診察と重点診察)
- ③外来検査
- ④診療プランニング
- ⑤診療記録
- ⑥上級医への医療コンサルテーション
- ⑦他診療科・他院との医療連携

到達目標2 経験すべき症状・病態・疾患

- ①頻度の高い症状の診察と鑑別診断
発熱、浮腫、全身倦怠、頭痛、めまい、胸痛、腹痛、腰背部痛、関節痛、動悸・心悸亢進、咳・痰・血痰・咯血、呼吸困難、悪心・嘔吐、吐下血、便通異常
- ②緊急を要する症状・病態
- ③経験がもとめられる疾患・病態
急性呼吸器感染症、高血圧および末梢動脈硬化性疾患、高脂血症、糖尿病、肥満、脂肪肝、花粉症、甲状腺機能障害、冠動脈疾患、脳血管障害、心不全、胃炎・胃潰瘍・十二指腸潰瘍・鉄欠乏性貧血

到達目標3 医の倫理、医療安全に基づいた適切な態度と習慣を身につける。

- ①医療スタッフとのグループ診療を実施することができる
- ②呼吸器外科診療における適切なインフォームドコンセントを得ることができる
- ③院内や学生主催の医療安全に関する研修を受けている

到達目標4 EBMに基づく学習方略を習得する

- ①院内研修会や学術集会に出席し、研究発表や症例報告を行なう
- ②担当症例の問題解決や、学術研究の目的に、資料の収集や文献検索を行なうことができる。

5) 研修方略

①コースの選択

初期臨床研修の必須科目として救命救急科研修の1カ月に合わせて研修を行なう。

②オリエンテーション

研修開始にあたり、ER・総合診療センターの規約をよく理解し遵守する。また、救急外来での診療機器の使用方法につき学習する。

③診療

指導医、上級医の指導のもとに、自主的に担当患者の医療面談および診察を行い検査計画・治療計画を立てて実践する。上級医のもとに、検査、処置を経験する。単独で施行できる手技については院内規定に基づく。

④症例検討会

毎朝のカンファランスで前日時間外に診療した全ての患者の診療内容・治療方針を検討する。
夕方のカンファランスで当日の時間内に診療した全ての患者の診療内容・治療方針を検討する。

⑤抄読会・輪読会・勉強会

各疾病の標準治療を学習するとともに、エビデンスを集積する。

⑥学会への参加

機会があれば、地方会レベルの学会に参加・発表を行なう。

6) 研修評価

研修期間全体を通じて、手術を含めた診療において、知識・技能・態度について、観察評価を行なう。
適宜ミーティングにより、形成的評価を行なう。

7) 週間スケジュール

月	火	水	木	金
症例検討会 外来 症例検討会 抄読会	症例検討会 外来 症例検討会 抄読会	症例検討会 外来 症例検討会 抄読会	症例検討会 外来 症例検討会 抄読会	症例検討会 外来 症例検討会 抄読会 輪読会・勉強会

小児科 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴 (目的)

- ①小児の生理および一般疾患の病態を理解し、小児科全般の臨床において基本的診療から高度医療までを幅広く実習する。
- ②小児科領域における臨床症例の主治医と行動を伴にすることにより小児診療に必要な基礎知識と技術を習得するとともに、重症例や稀少例の精査・治療過程を見学することで、小児医療への理解を深めること目的とする。

2) 施設認定：日本小児科学会

3) 指導医

磯田 賢一 部長 (松下記念病院) □ 日本小児科学会専門医

4) 教育内容と到達目標

- 1ヶ月の基本的ローテーション期間内で、日常的な小児診療に必要な基礎的知識と技術を習得する。
- ①小児疾患の特殊性について理解し、患児・家族から正確な病歴を聴取、記載し、診察ができる。
- ②小児の成長、発達についての適切な評価ができる。
- ③小児が健康に育つための栄養の基本知識を習得する。
- ④患児の身体面だけでなく家庭、学校、社会的側面の重要性を認識し、適切に対応できる。
- ④他科との境界領域疾患 (アトピー性皮膚炎、伝染性膿痂疹、伝染性軟属腫、おむつかぶれ、アレルギー性鼻炎、副鼻腔炎、夜尿症、痙攣性疾患など) の治療に、ついて学習する。
- ⑤次の診療技能の学習に努める。
基本的な理学的所見、静脈採血、静脈ルートの確保など
- ⑥次の検査法について、自ら実施し、その結果について判断できる。
尿一般検査、便一般検査、心電図記録
- ⑦次の検査の指示を適切に出し、結果を判断し、診療に応用できる。
一般生化学検査 (血液、尿、) 微生物検査、血清免疫検査、内分泌検査、アレルギー検索、単純X線撮影。

5) 週間スケジュール

	午前	午後
月	外来診療	病棟回診
火	外来診療	病棟回診
水	外来診療	病棟回診
木	外来診療	病棟回診
金	外来診療	病棟回診

地域医療 (必修科)

研修プログラム

1) プログラムの特徴

2年次に1ヶ月間ローテーションし、地域医療（保健福祉行政、在宅医療を含む）の実際と医療機関連携の重要性につき理解を深めることに重点をおいた研修を行う。

また僻地医療研修として北海道白糠郡の診療所で1週間の研修をおこなう。

2) 認定施設：特になし

3) 指導医

しんとう整形外科・リウマチクリニック	神藤 佳孝 院長
あべの松井クリニック	松井 英 院長
マエダクリニック	前田 孝雄 院長
セセッカ診療所	湯屋 博通 理事長
ベルピアノ病院	倉都 滋之 院長

4) 研修内容と到達目標

1. 診療所の地域のかかりつけ医としての機能と病診連携による地域医療の補完性を経験し理解を深める。
2. 訪問看護を通じ地域の在宅医療を経験し理解を深める。
3. 地域密着型病院における療養やデイケアなどを通じ地域医療期間の役割分担と医療連携の重要性、社会福祉施設の役割などにつき理解を深める。
4. 僻地医療における診療所の役割について経験し理解を深める。